



笠岡

「なくそう核兵器」市民の会結成 市民の過半数署名をNYへ届けよう を決意

1月9日、笠岡市内の「サンライフ笠岡」で“なくそう核兵器”署名をすすめる市民の会が結成され、スタート集会が開かれました。

準備会の訴えに市長をはじめ市内の著名な92人が賛同、15人の代表の呼びかけ人で開催されました。スタート集会には市内の各組織・団体の代表60人が参加、5万5千市民の過半数の署名を集めNPT再検討会議に願いを届けようという意思統一しました。

会は準備会の酒井代表のあいさつのおと、市被爆者会筒井会長が「私どもが先頭でやるべきこと、会の結成は本当に嬉しい」、森岡聡子ボランティア連絡協会会長は「世界に期待されている日本の役割がある。1人ひとりが点から面に運動を広げましょう」とあいさつ。また私立龍谷高校の安西先生は、津田校長の代理として「草の根の力を集め、市民の声が世界を変える力になれば」と訴えられました。また市母連の内山弥生会長は「4年生の娘がはだしのゲンのマンガを読み『ほんま



にあつたん?』と聞きます。子どもたちにこんな怖い思いをさせないように頑張りたい」と話されました。笠岡市職労小野一仁委員長は「非核自治体宣言に基づき、行政と一緒に平和の取り組みを進めてきた。私たちは『二度と赤紙は配らない』の思いで頑張りたい」と決意をのべました。

岡山県被爆者会副会長の土屋圭示さんは「私は17歳の時広島で被爆。あの日ふんどし一つで黒い雨で体を洗った。その後いろんな病気になり、放射能の恐ろしさを身にしみて感じている。」と自ら描いた絵をかざしながら被爆の「語り部」の体験を話され、「核兵器は絶対ダメだ。私もNPTに行き、NYで語り部をします」とあいさつされました。

会は市民の過半数署名目標、事務局などの会則を確認し「青い空は」を全員で合唱し終了しました。



(写真) 被爆者会の上屋さん・スタート集会1月9日・左・訴える

集会終了後 さっそく街頭宣伝

あたたかい市民の反応に元気ができました。

スタート集会後、さっそく市内の大型スーパー前で宣伝行動を行いました。行動には13人が参加。賛同者の一人原田毅市議〔共産党〕が「市長をはじめ90人余の賛同者で始まった核兵器廃絶署名です。5月の国連に提出します。ご協力下さい」と訴えました。スーパーの買い物客の8割近くが快く署名に応じてくれ、50分で235筆の署名が集まりました。(スーパー前での署名行動・笠岡1/9)

